

令和7年度事業計画

令和6年1月1日に起きた最大震度7の能登半島地震では、県内に甚大な被害をもたらしました。内灘町でも液状化現象が起き、災害の爪痕が今も色濃く残っている現状であり、公費解体を終えた更地が増えつつあります。

この未曾有の事態の中ではありますが、シルバー人材センターでは人生100年時代を見据え、地域社会の発展と就業意欲のある高齢者の受け皿としての役割を積極的に果たして参ります。そのためには、安全・適正就業を基本に、安定的なセンター運営に取組み、町民からの多様な就業ニーズに応えていくことが求められます。

会員の平均年齢上昇、賃金や物価高の高騰、希望する仕事のマッチングの難しさ、フリーランス法の施行及び新契約方式への移行などの様々な課題が山積しております。

今後も、内灘町をはじめ関係機関の支援と協力を得ながら、また能登半島地震の復興に向けての取組にも参加しつつ、会員及び役職員が一体となり、シルバー人材センターの使命と役割を果たすために取り組んでまいります。

1 組織運営体制強化

町民からのニーズに応えていくため、会員増強が課題となっております。

(1) 会員増強

- ・定期的に、毎週木曜日の午後より入会説明会を開催
- ・町広報誌を活用した新規会員の獲得
- ・ハローワーク金沢及びハローワーク津幡での高齢者向け説明会の継続
- ・講習会と連携した会員入会の促進
- ・魅力のあるチラシ作り

(2) 事務局体制強化

- ・役員・会員で構成された専門委員会による事業運営の取り組み
- ・県内外のシルバー人材センターにおける運営状況をリサーチし、フィードバックできるか検討
- ・事務作業の効率化

(3) 会員による自主運営確立推進

- ・職群班・地域班など将来の組織構築を見据えた、資質・技量のある会員養成
- ・技術技能分野の後継者育成
- ・専門委員会による事業企画

2 就業機会の開拓

自主財源確保対策の最重要課題として、受注活動の拡大に努めます。

- ・会員及びお客さんとのSNSやメールでの就業開拓
- ・石川県シルバー人材センター連合会と連携した技能講習会参加への推進
- ・デジタル推進委員によるスマホ教室を開催し、デジタル化を推進
- ・内灘町及び内灘町社会福祉協議会、地域包括支援センターとの連携
- ・内灘町と連携した「空き家管理業務」の周知及びふるさと納税返礼における「お墓清掃代行サービス業務」の周知

3 安全・適正就業に関する意識・知識の向上

会員各自が、「自分の命は自分で守る」という安全に対する認識を定着させ、事故0件センターを目標とする。

- ・各作業班による朝礼・終礼の徹底（現場指示、注意事項の伝達等）
- ・安全・適正就業委員会を中心とした現場パトロールの強化
- ・ヘルメット、カラーコーン、安全ベストなど保安用具使用の徹底
- ・「いきいき通信」を活用した安全就業の啓発・情報発信
- ・「安全ワッペン」の普及徹底
- ・「適正就業ガイドライン」の遵守

4 普及啓発活動

センターのPRと会員の一体感醸成を兼ね、ボランティア活動に取り組みます。

- ・普及啓発月間中における除草ボランティア他PR活動（10月）
- ・ポイントシステムと連携した一会員一就業先開拓運動の継続実施
- ・折込チラシによるシルバー事業の周知
- ・シルバーの活動内容をお知らせする「わくわく情報局」の発行

5 その他

- ・内灘町シルバー人材センターの特色を生かした新規事業の模索
- ・家事福祉援助サービスの拡大
- ・派遣事業の拡大
- ・スマホアプリ「LINE」を活用した会員との業務連絡
- ・会員参加型イベントの企画